

# EXPO 2025 OSAKA, KANSAI, JAPAN

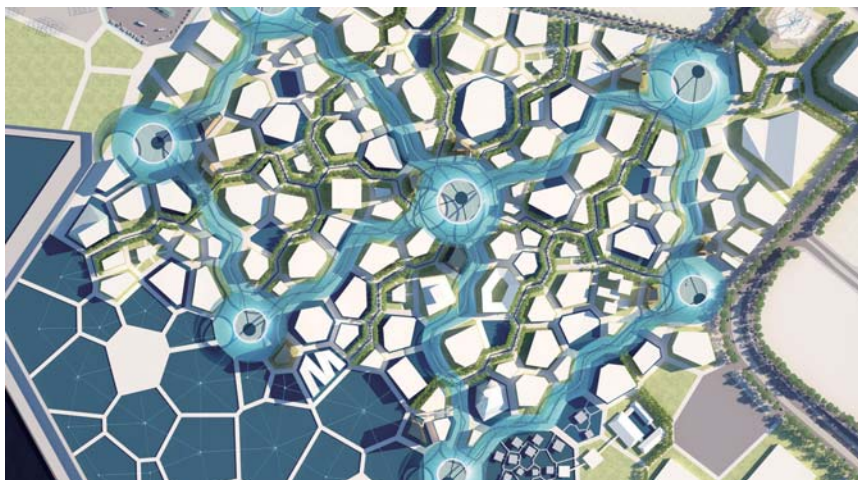
## ICT を活用したデジタルサイトマネジメントへの取り組み

日建設計総合研究所では、2015年から国際博覧会の大阪誘致の可能性検討に着手しています。当掲載資料は、2017年9月に日本国（経済産業省とりまとめ）が博覧会国際事務局（BIE）に提出したビッド・ドシエ（立候補申請文書）の会場構想の抜粋であり、当該部分は、大阪府「2025日本万国博覧会会場概略検討業務」において、日建グループ（日建設計総合研究所、日建設計、日建設計シビル）が提案・作成した資料の一部です。

2025日本万国博覧会では、テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」のもと、「多様で心身共に健康な生き方、持続可能な社会・経済システム」を実現する「未来社会の実験場」を提案しています。さらに、先進のICTを駆使した新たな近未来社会の体験やデジタルサイトマネジメントの実現を目指しています。

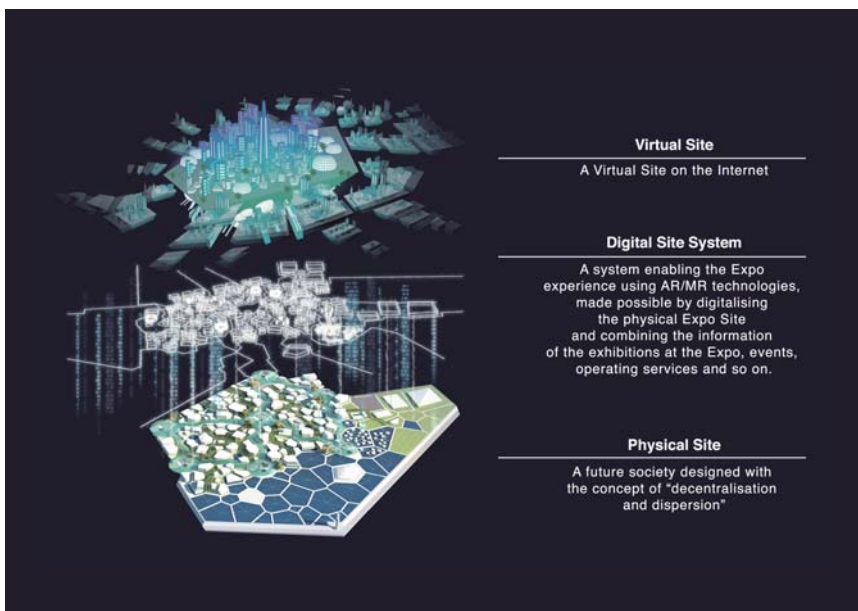
### 非中心、分散型のパビリオン配置

あえて中心をつくらない分散型の会場デザイン。個と個の関係、多様性の中から生まれる調和と共創によって形成される未来社会を表現。2つのエントランスと5つの大広場をつなぐようにメイン通りを設置し、その上には大屋根を設置。



### デジタルサイトシステム with BIM/CIM

BIM/CIM やセンサーなどを活用したデジタルサイトシステムの導入により、来場者は現実社会とAR/MRによる仮想現実を組み合わせた近未来社会の新しいコンセプトを体験。また、エキスポ開催以前からインターネット上にバーチャルサイトを立上げ、事前かつ遠隔からの会場体験を実現。



#### 主なスケジュール

2017年9月28日 ビッド・ドシエ提出期限 11月15日 BIE総会（第2回プレゼン）	2018年3月5日～9日 BIE調査団来日・審査 6月13日 BIE総会（第3回プレゼン） 11月23日 BIE総会 （最終プレゼン後、投票により開催地決定）
---	--

### 鳥瞰図

会場は、大阪のウォーターフロントに位置する人工島・夢洲（ゆめしま）。会場面積は、155ヘクタール。（会場中心部にパビリオン等、南側水面に水上施設等、西側緑地にアウトドア施設等をそれぞれ整備。）



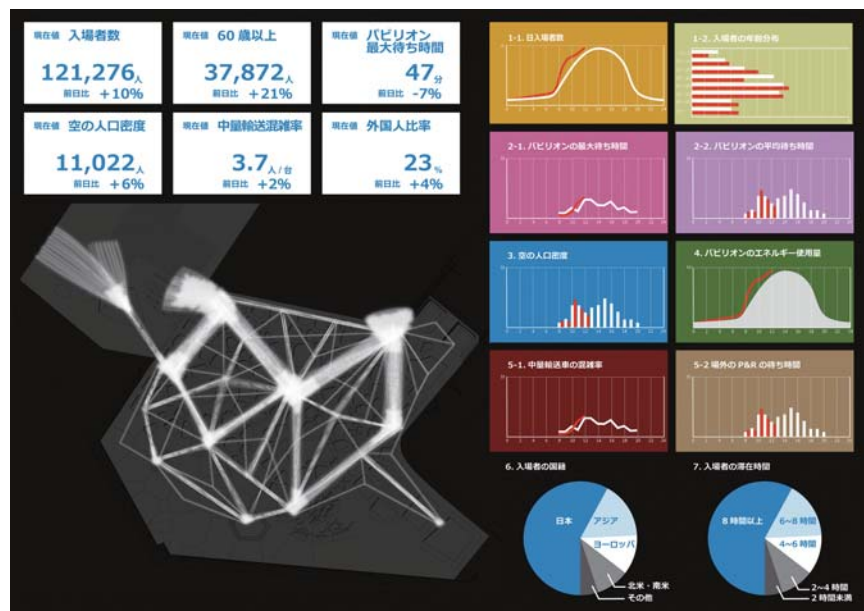
### 大広場：「空」（くう）

会場内の5カ所に「空」（くう）と呼ばれる大広場を設置。AR（拡張現実）・MR（複合現実）技術を活用した展示やイベントなどを行い、来場者の交流の場とする。



### エキスポサイトマネジメント

デジタルサイトシステムによりオンサイト情報をリアルタイムに可視化し、パビリオン、イベント、オペレーションサービスの高度化を図る。また、場外駐車場を含め会場内外を運動させた最適な群衆マネジメントを実現する。



#### 資料出典

2025年国際博覧会の大阪・関西誘致に向けたビッド・ドシエ（立候補申請文書）  
2025日本万国博覧会 会場概略検討業務、平成30年3月、大阪府